

新潟焼山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

<噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）が継続>
本日実施した上空からの観測によると、山頂東側の噴気孔周辺に降灰を確認しました。
このことから、ごく小規模な噴火が発生した模様です。なお、噴火の時期については不明です。
今後も、想定火口内に影響を及ぼすような噴火が発生するおそれがあるため、火山活動の推移に注意してください。
想定火口内（山頂から半径 1km 以内）は、平成 28 年 3 月 2 日から、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・表面現象の状況（図 1 ～ 3）

新潟県警察の協力により実施した上空からの観測によると、山頂東側の噴気孔周辺に、概ね 400 m × 200m の範囲で降灰を確認しました。このことから、ごく小規模な噴火が発生した模様です。なお、噴火の時期については不明です。

・噴気の状況（図 5 - ）

新潟県土木部砂防課が設置している監視カメラによる観測では、昨年（2015 年）夏頃から、山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、昨年（2015 年）12 月下旬からは噴煙量も多くなっています。

・地震や微動の発生状況（図 4、図 5 - ）

5 月 1 日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しています。5 月 4 日以降は低周波地震も発生しています。

・地殻変動の状況（図 5 - ）

GNSS による地殻変動観測では、2016 年 1 月頃から新潟焼山を南北に挟む基線でわずかな伸びがみられています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 新潟焼山 山頂付近の降灰の状況（2016 年 5 月 6 日撮影）

- ・ 山頂東側の噴気孔周辺に降灰と考えられる噴出物が認められました。

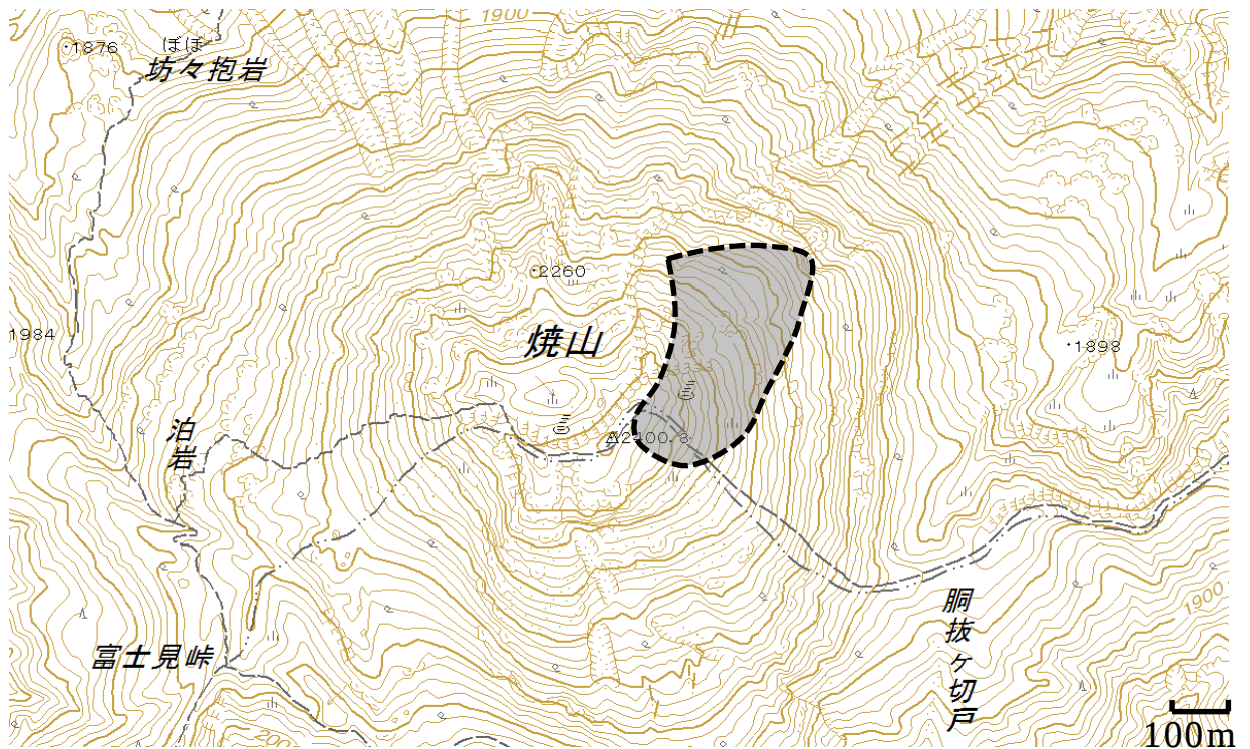
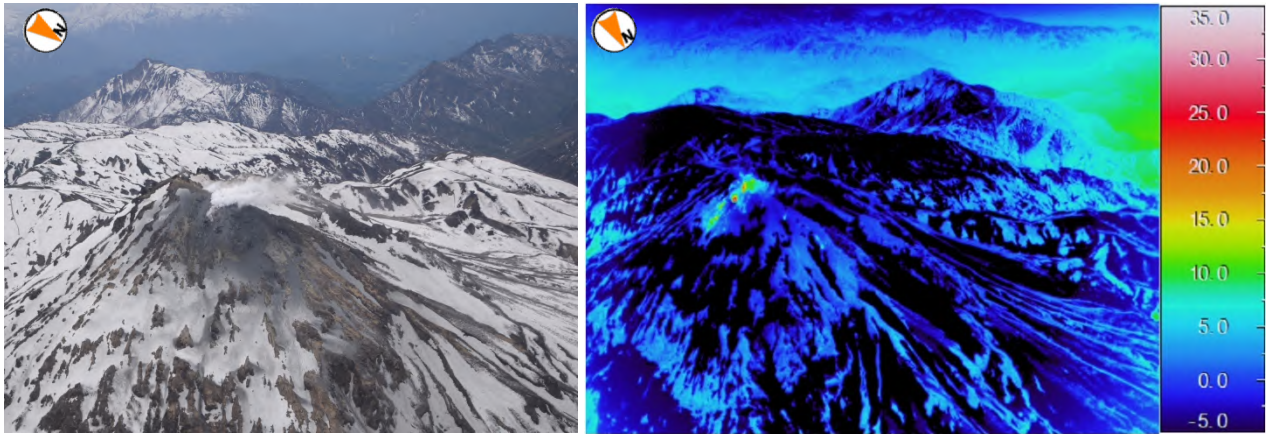
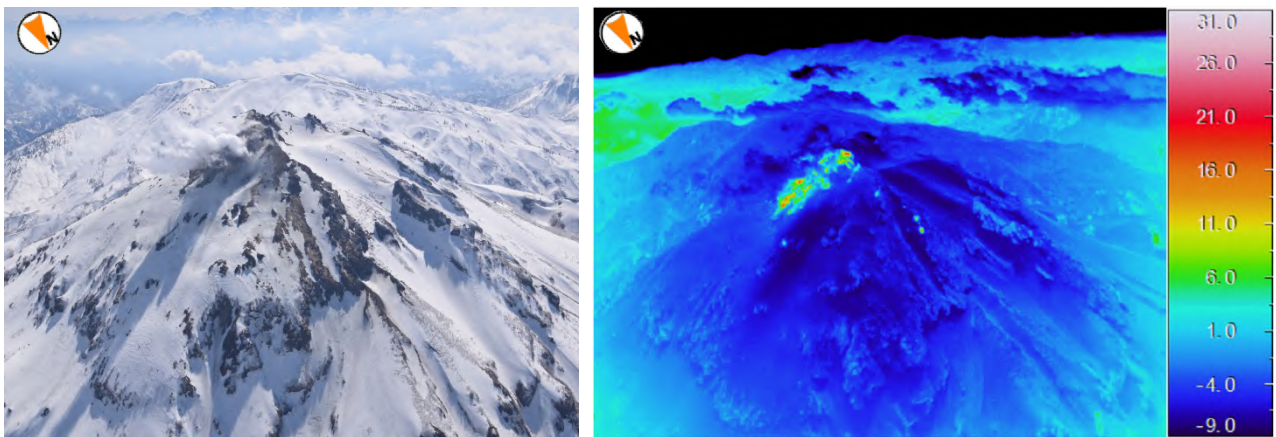


図 2 新潟焼山 降灰の分布状況



2016 年 5 月 6 日 撮影



2016 年 4 月 15 日 撮影

図 3 新潟焼山 地熱域の分布の状況

・地熱域の状況は、前回（2016 年 4 月 15 日）と比較して、特段の変化はありませんでした。

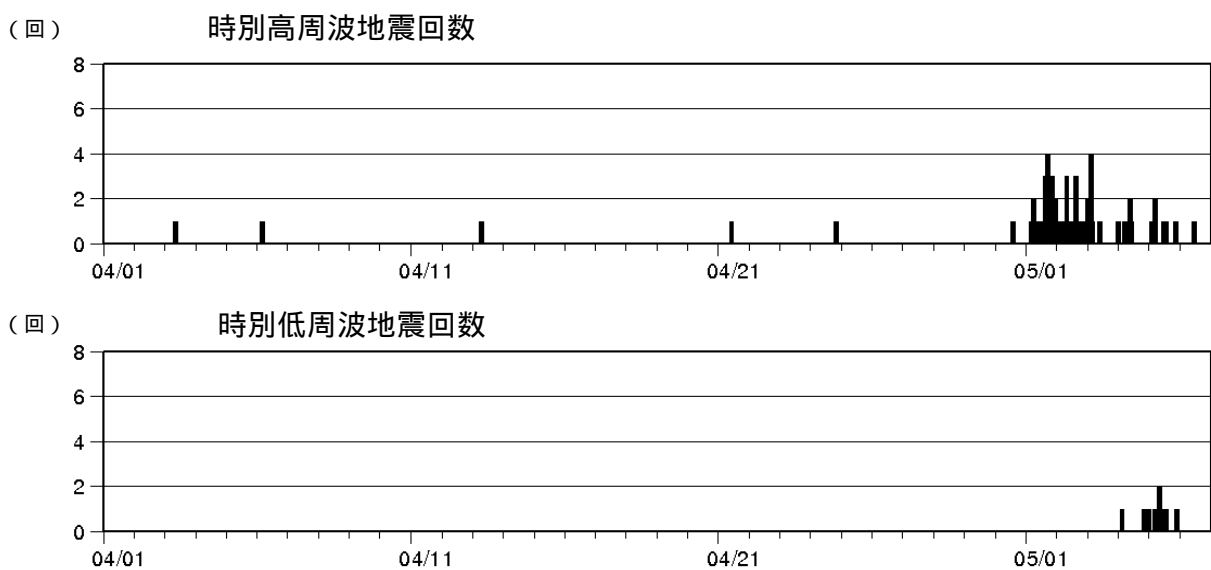


図 4 新潟焼山 特別地震回数（2016 年 4 月 1 日～2016 年 5 月 6 日 18 時）

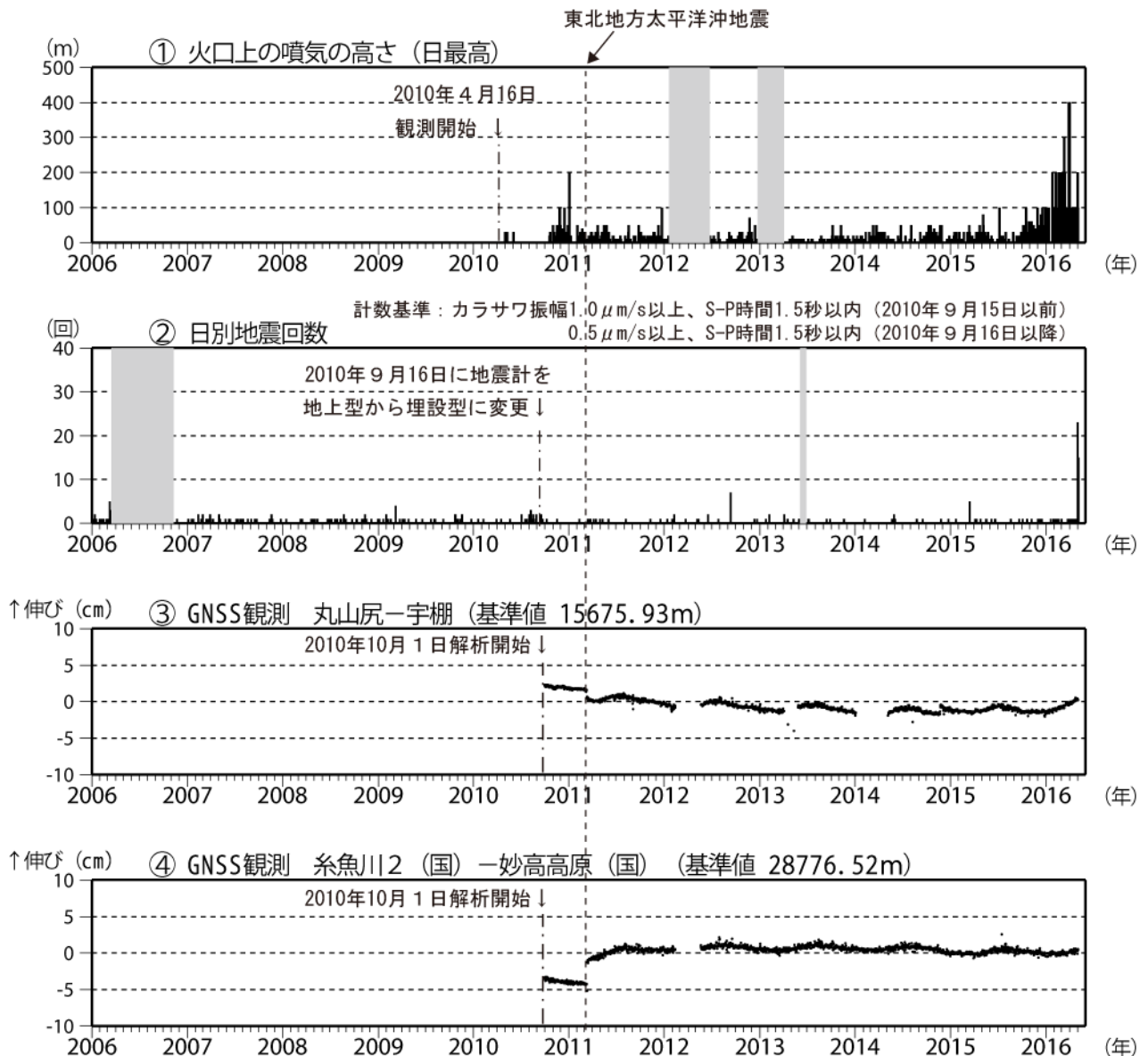
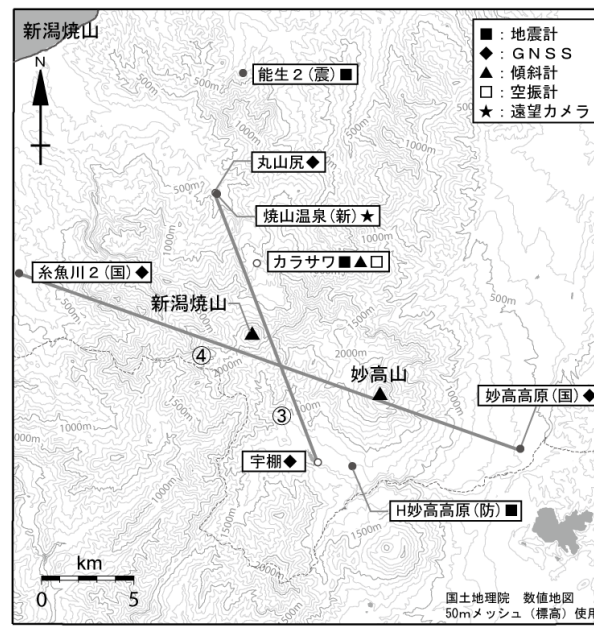


図5 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2016年5月5日）

- ：定時観測（09時・15時）による日別最高の火口上の噴気の高さ
- ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ：日別地震回数
- ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ・図4は、4月以降の日別地震回数を拡大して示しています。
- ：GNSS連続観測結果（国）：国土地理院
- ・の基線には、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。
- ・は、図6のGNSS基線に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を示します。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図 6 新潟焼山 観測点配置図
(GNSS 基線 は図 5 の に対応しています。)